



新潟県

新潟地域若者サポートステーション 就職氷河期世代への『オーダーメイド型支援』について

サポステ基本情報

運営団体名	企業組合労協センター事業団
スタッフ数	常勤 7人 非常勤 9人

取り組みのポイント

① 取り組みのねらい・ポイント

新潟地域若者サポートステーションでは、複合的な課題を抱えた就職氷河期世代の方一人ひとりに対し効果的な支援を行うため、サポステ本来の支援メニューに加え、就職氷河期世代支援加速化交付金（内閣府）を組み合わせた『オーダーメイド型支援』を実施している。概要は以下の通り。

個人宅への訪問を含むアウトリーチ支援員の配置

アウトリーチ支援員を新たに配置し、福祉機関等（ひきこもり支援機関・社会福祉協議会・市役所保護課等）と連携した個人宅または個人宅周辺の公共施設での訪問相談を含む、アウトリーチ支援『SORORI サポート』を行うことで就職氷河期世代支援を新潟市全域に展開する。

臨床心理士（公認心理師）による相談対応の強化

「将来への不安」や「孤独」など就職氷河期世代の方に生じる心理面への丁寧かつ柔軟なサポートを行うため、臨床心理士を増員し、相談体制を手厚くする。

企業説明会の実施

企業担当者との相談に加え、就職への不安解消に向けた職業適性検査（RIASEC）を行い、個別アウトリーチとの連携による支援対象者の掘り起こしも視野に入れた、『やさしいお仕事説明会』を実施し一歩を踏み出すきっかけとした。

面接時に必要なスーツのレンタル

経済的な事情からスーツを所有しておらず、採用面接に行くことに困難を感じている方に対するサポートを実施。

② 取り組みの具体的な内容・方法・効果

個人宅への訪問を含むアウトリーチ支援員の配置

新潟市内の福祉機関（ひきこもり支援機関・社会福祉協議会・市役所保護課等）の利用者のなかで、サポステでの支援が有効と思われる方で地理的あるいは経済的理由から来所が困難な方に対し、個人宅または個人宅周辺の公共施設に福祉機関職員とアウトリーチ支援員とが赴き、信頼関係を築きながらサポステの支援メニューを説明し、丁寧に来所を促していく。

臨床心理士（公認心理師）による相談対応の強化

就職氷河期世代の来所者の特徴として、長期間他者や社会と関わること自体の難しさを抱えている人が多いため、来所した時点から心理士が丁寧に関わるような体制をつくった。具体的にはインテーク面談、GATB職業適性検査のフィードバックの時点からできる限り心理士が担当することにした。継続相談の中で、本人の特性やこだわり、精神的な不安などが見えてきた場合には、医療機関や専門機関へリファーした。リファー時には電話や紙面での情報提供、時には同行相談など、本人が安心できる形を優先した。就労への動きとしては、キャリアコンサルタントを加えた三者面談を実施したり、ジョブトレーニングへ誘導しながら、徐々に他者や社会に関わる機会を創出した。就労経験がある場合には、その経験を活かせる同業にねらいを定めたところ、正社員として就労できたケースもある。キャリアコンサルタントをはじめサポステ内の多職種と連携しながら、面の支援をしていくことが大切だと考える。

企業説明会の実施

新潟市の各区役所・社会福祉協議会・ハローワーク分署等、連携機関が設置されている施設を会場として選択した。駐車場も完備されており、公共交通機関でも来場できるアクセスの良さを重視し各連携機関からの紹介も目的とした。企業には事前にコンセプトを説明した上で出展を要請し、各支援機関にも周知を行った。参加者は予約なしでブースをまわったり、職業適性検査（RIASEC）も受検できる形式で実施。チラシやパンフレットには「私服OK」「履歴書不要」を盛り込み参加しやすさをPRし、さらに「一人ではハードルが高い」方には、サポステ発着の同行送迎も行った。

面接時に必要なスーツのレンタル

- ① サポステの支援プログラムを経て応募先が決まった利用者にスーツの用意ができるかを確認し、もし用意できないようであればスーツレンタルの担当者に、その旨を伝えておく。
- ② 面接日が決まり次第採寸し、面接2日前にはサポステに到着するようレンタル会社に発注する。
- ③ 到着次第発注内容を確認し、本人へ連絡。サポステにて引き渡す。
- ④ 面接終了後直ちに返却してもらい、レンタル会社へ返却。使用日数は配送日数を含め3泊4日である。レンタル商品がセット商品になっており、スーツ以外にも靴・靴・シャツ・靴下まで用意できるので、面接に対する経済的・精神的負担を軽減することが可能となる。



令和2年度 第1回やさしいお仕事説明会

日時	令和3年1月20日 13:30~16:00
場所	新潟市東区プラザホール
主催	新潟市 / 新潟地域若者サポートステーション
共催	ハローワーク新潟
後援	新潟県中小企業家同友会
参加人数	来場者 119名 (男61 / 女58) 出展企業 27名 (16社) 運営 21名 (県・市・HW・サポステ) 取材他 3名 合計 170名

③ 実施上の留意点

個人宅への訪問を含むアウトリーチ支援員の配置

事前に福祉機関職員とカンファレンスを行い、お互いの機関の得意・不得意を考慮しつつ、役割分担を明確にしておく。特に自家用車の有無や交通費など経済的な問題がネックになっている場合は、事前に有効な社会資源を確認している。また対象者が長期間にわたって社会との関わりを喪失していたケースでは、対象者の心身の負担を考慮し、面談時間を短くしたり、個人宅または個人宅周辺の公共施設での訪問相談を組み合わせ、来所を無理強いないなどの工夫を行っている。

臨床心理士（公認心理師）による相談対応の強化

前提として就労機会が少なかった時代背景を認める必要がある。同時に理想と現実とのギャップが生じた場合、社会や企業に合わせていく柔軟性と素直さが求められるが、年齢を重ねるにつれて「この年齢ならこれぐらいできて当然」という社会の目を感じ、自分への要求やプライドが高くならざるを得ない。そこに生じてくるしんどさや不満を認証しながら信頼関係を構築し、どのような就職活動ができるのかを共に探る柔軟な姿勢が心理士側にも問われてくるとされる。

企業説明会の実施

予想以上の来場者数だったため入場制限を行わざるを得なかった。事前に制限基準や来場者数制限（予約制）などマニュアル作成が必要である。ただ予約制でないメリットも大いにあった。また企業には採用目的ではないことを十分に説明し応募に至らない場合でも納得していただくことが必要だ。

取り組みの成果と今後の課題

“サポステ”といえば、若年無業者のための就労支援機関といったイメージが定着していたが、上記の取り組みを通じて①就職氷河期世代支援のニーズが存在することを確認できたこと、②各支援機関に「サポステは就職氷河期世代も受け入れている」ことが周知できたこと、また③従来であれば、地理的あるいは経済的問題からサポステ来所に至らなかった方も、サポステ本体事業に就職氷河期世代支援加速化交付金等（訪問相談や心理士相談）を柔軟に組み合わせ、サポステ支援プログラムにつなぐことによって、一定の成果を上げ得ることができたのは重要だ。今後もこうしたスキームを活用し、利用者間で“格差”が生じることのないよう、努力していく必要がある。最後に就職氷河期世代をこのまま放置すれば近い将来において莫大な社会保障費が発生するとされる。今後就職氷河期世代を社会全体でどのように包摂していくべきか、広く考えていくことが必要な時期にきているのではないかと。人生100年時代と言われる現在、40歳代からの社会参加は決して遅くはないのである。

文責 河田 陽介（総括コーディネーター）